

空港土木工事における代表材料規格の基準単価作成方法について  
(平成30年4月適用)

空港土木工事における施工パッケージ型積算方式で標準単価から積算単価への補正を行う際に使用する代表材料規格の基準材料単価（以下、「基準材料単価」）は、原則として以下の1及び2の手順により作成している。

1. 基準材料単価は、「建設物価」（一般財団法人建設物価調査会発行）及び「積算資料」（一般財団法人経済調査会発行）（以下、「物価資料」という。）の平成29年4月号に掲載されている東京地区における代表材料規格の単価の平均値を採用している。
2. 2つの物価資料の単価を平均する場合、物価資料の有効桁数で切り捨てている。

以上

施工パッケージ型積算基準 代表機労材規格一覧

機労材区分	名称・規格	単位
1	機械損料 ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準値)]3t級	供用日
2	機械損料 トラック [普通] 2t積	供用日
3	機械損料 モータグレーダ[排出ガス対策型(第1次基準値)]ブレード幅3.7m	供用日
4	機械損料 ロードローラ[マカダム・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量10~12t	供用日
5	機械損料 タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)]質量3~4t	供用日
6	機械損料 タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)]質量8~20t	供用日
7	機械損料 振動ローラ [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	供用日
8	機械損料 振動ローラ [搭乗式・タンデム] 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8~10t	供用日
9	機械損料 振動ローラ [搭乗式・タンデム] 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t	供用日
10	機械損料 振動ローラ [搭乗式・コンパクト型] 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量3~4t	供用日
11	機械損料 ASフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅1.4~3.0m	供用日
12	機械損料 ASフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅2.4~6.0m [排出ガス対策型(第1次基準値)]	供用日
13	機械損料 ASフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅3.0~8.5m [排出ガス対策型(第1次基準値)]	供用日
14	機械損料 ディストリビュータ [自走式] 2000~3000リットル	供用日
15	機械損料 アスファルトエンジンプレーヤ[手押し式]25リットル/min	供用日
16	機械損料 路面清掃車 [ブラシ式・四輪式] ホッパ容量2.5~3.1m <sup>3</sup>	供用日
17	機械損料 散水車 5500~6500リットル	供用日
18	労務 特殊作業員	人
19	労務 普通作業員	人
20	労務 特殊運転手	人
21	労務 一般運転手	人
22	労務 一般土木世話役	人
23	材料 軽油 1.2号	リットル
24	材料 ガソリン レギュラー	リットル

(注1) 機械損料は、「平成28年度 船舶および機械器具等の損料算定基準」の供用日当たり換算値損料(15欄)を使用